

令和3年3月25日

総務部

令和3年度 第2回学校関係者評価委員会 [記録]

司会:海和教頭

記録:大石総務部長

[日 時] 令和3年3月25日(木)14:30~16:17

[場 所] 仙台大学附属明成高等学校 新校舎1階 Main Meeting Room

1 挨拶

(1) 朴澤泰治理事長

新校舎での初めての会議となります。

先日の地震で新校舎にも若干の被害がありました。思い返せば、10年前の東日本大震災では、新築して引き渡し前の仙台大学第5体育館が被害にあいました。その後、卒業式に間に合うよう準備した記憶があります。

今回は新校舎完成引き渡し後の2日後に地震がありました。法律的にはいろいろあると思いますが、見方によっては完全な引き渡し前・・・ということで建設を担当した鹿島道路さんに補修工事の対応をいただきました。先日の地震でも対応いただいているところです。

昨日、1~2年生の生徒対象で感染予防のため校内放送を使って入校式を行いました。「新しい器に新しい酒を盛る」という言葉がありますが、新しい酒をどうするか・・・言い換えれば「教育の中身をどうするか」ということだと思います。全校生徒に、昨今の教育改革の流れ等に沿いながら、がんばっていきましょうという話をしました。

本日は今年度の振り返りの会議となりますので、いろいろご意見をお願いします。

(2) 中村勝彦校長

現在、県内には緊急事態宣言が発令され、感染状況が大変深刻な状況になっています。本校では、これまで生徒・教職員とも感染者ゼロで進んでおります。

今年度を振り返ると、さまざまな制約のなか、生徒達はよく頑張ってくれました。昨年3月の卒業式では、全国に緊急事態宣言の発令や学校への一斉休校要請がありました。3月3日、保護者の参列は叶いませんでしたが、体育館に生徒と教職員が集い卒業式を行いました。また、1~2年生の学年末試験も全日程を終えてから臨時休校に入りました。約2ヶ月の休校期間を経て、6月1日から平常授業を再開しました。全国から集う男子バスケット部員等は実家への帰省も出来ず、よく頑張ってくれました。校内関係者の中から感染者が出るのは、対策を講じても万全とはいかないことから覚悟しておりましたが、県内1番目になると世間に騒がれてしまうかと心配していました。本校の教職員・生徒ともよくがんばってくれ、感染者ゼロで昨日の修業式を迎えることができホッとしているところです。

入学段階から新校舎の建設を毎日見ながら過ごした3年生は、しっかりと学校生活をおくり、卒業式への参加態度も大変立派でした。本校に長く勤めるベテランの先生方からも、近年でも素晴らしい参加態度だったと感想を寄せられました。また、日々の挨拶もよくできるようになりました。

生徒募集に関しては、新学科330名定員に対して最終的に321名の入学予定となりました。昨年316名、4年前は290名台でしたので、定員に一步届かなかったのは残念でしたが、他校の状況や中学校卒業生数の激減時期であることを考えると善戦できたと思います。実学の魅力を伝えるため、他校で多く取り入れられたオンライン形式ではなく、対面式でのオープンスクールなどを行ったり、外部に出向いての説明会などを企画しました。

退学者を減らすことも目標でした。入試では、ほぼ全入(全員入学)であること、悩みを抱えた生徒も多く入学していることを考えると、退学率は目標の3%には届きませんでしたが、3.3%に抑えることができました。

進路100%決定についてです。進学は100%でしたが、就職は97%でした。

来年度、2年生まで新学科となります。試される1年になると思います。新学科1年生は仙台大学への進学希望者が70名(例年20名程度)であり、意識が高くなってきていると思います。この70名をどうやって育てていくか重要な責任と感じています。

これまで、本校は交通の便の悪さ、校舎の老朽化等がありましたが、実学教育の魅力で生徒募集を行ってきました。いよいよ新校舎が完成しましたので、ICTの活用や授業公開などを通して未来を切り開いていきたいと考えています。本日はありがとうございました。

2 自己評価結果について(生徒及び保護者のアンケート結果と考察より)

(1) 総括(本郷参与)

「満足度100パーセントを目指して」パワーポイントを使用しながら説明。

学校への満足度(質問項目⑦)・・・生徒の満足度が保護者・教職員に比べて低い数値。

家庭学習の習慣化(質問項目⑳)・・・令和2年度は若干数値が上がっている。コロナの影響により家庭学習が影響しているかと思われる。

仙台大学との連携(質問項目㉔㉕)・・・生徒・保護者の数値が低いが、教職員は高めの数値。スポーツ関係の科・コースはつながりを強く感じているが、普通科は若干弱い。

連携意識の希薄さ 生徒>保護者>教職員

(2) 各分掌から

①募集業務部(和山部長)

②教務部(本田部長)

③進路指導部(新妻部長)

④生徒指導部(中村部長)

上記の順番でそれぞれの担当者から発表があった。

内容については、アンケート結果を踏まえた次年度の課題と教育活動の説明が行われた。

3 新校舎見学

4 評価委員から

○高橋 仁 副学長(学長代理)

素晴らしい校舎が完成しました。いよいよこれからかと思いますが、新しい発想で進めなければならないと思います。仙台大学も同様です。これからは、デジタル化が一気に進むということです。県立学校も進んでいますが、コロナ禍でさらに加速すると思います。

資料作成についてです。1年生の動向と、2～3年生の動向は別に作った方がよいかと思います。新学科1期生の3年間の動きも継続してみたいと思います。

生徒指導部のイベント開催は知恵を絞って・・・と説明がありましたが、重要なことだと思います。先生方・事務職全員で知恵を絞って生徒のために何が出来るか考えてほしいです。そのことが、生徒の満足度向上にもつながると思います。現在のところ、先生方の満足度が高めで、生徒の満足度が低めということです。教職員側が意識しなければ結果が変わらないと思います。先ほど説明がありましたが、「学力」だけで生徒を引っ張ろうと

すると難しいと思います。まずは、「勉強がわからないけど、学校は楽しい」と言わせられればよいと思います。

最後に、中村校長先生に御礼を申し上げたいです。これまで7年間、教頭・校長と学校改革のためにご尽力いただきました。中村先生には、多賀城高校時代、災害科学科設立に大変尽力いただきました。新学科設立や新校舎建設を行った仙台大明成高校でも大変なご苦労があったと思います。4月からは、直接ではなくなりますが、いろいろな形で応援団としてお力添えをいただきたいです。ありがとうございました。

○坪井 健 七十七銀行荒巻支店支店長

コロナ禍の1年間、学校運営にご苦労されたと思います。募集・進路指導・教育面という観点でオンライン化、Web化、デジタル化が進んでいくと思います。さきほどの新校舎内見学で実際に見学できましたが、黒板に書いた文字がパソコンに保存できるなど伺い、驚きました。

手前どもの話となりますが、当行で仙台大明成高校の卒業生が、数多く活躍していると聞いています。来年度は残念ながら入社される方はおりませんでした。来年度以降、一緒に働けることを楽しみにしています。

新校舎完成により、ハード面は整いました。今後は、教育の質向上などソフト面の充実でさらなる飛躍を期待しています。

○渡部隆一 桜丘中学校校長

新校舎を実際に見学させていただき感動しました。公立中学校にとって、また中学生にとっても夢のような校舎だと思いました。一昔前は、公立第一主義でしたが、昨今の流れでは、公立高校でも定員割れ、私立高校受験が終わって公立高校を受験しない生徒が、本校では約3割おります。お金をかけた分、魅力はあると思います。

また、パンフレット等では承知していましたが、実際に見学することで大きくイメージが変わると思います。ハード面の次はソフト面かと思えます。卒業したときに成果として表れると思えます。同じ地域にある中学校としても協力していきたいと考えています。

○酒井典雄 桜ヶ丘連合町内会会長

新校舎をみてびっくりしました。また、校内の設備に大変驚いたとともに、先生方も意識を改革していく必要があると感じました。アンケート結果を見ると、規律の点では素晴らしいと思います。一方、部活動では生徒がのびのびと楽しめるものがもう少しあるとよいのではと思います。また、昨年末の男子バスケットボール部のウインターカップ全国優勝、そして連日の逆転劇は素晴らしいことでした。

桜ヶ丘地区についてですが、人口減少、高齢化がさらに進んでおります。人口減少に歯止めをかけようとするさまざまな取り組みをしていますが、仙台大明成高校もそれに寄与されると思っています。幼稚園から大学まで設置している文教地区として、若者が集う地域にしていきたいです。

【質問】

酒井さん:このたびの仙台大明成高校前のバス停名称変更、大変よいことですが、バス停の移設はなぜでしょうか？

事務長 : 現バス停は、横断歩道の近傍にあり危険性を指摘されていました。また、カーブの先にあることから、以前、小学生が危ない目に遭ったと聞いています。交通局から、道路の幅の広い70メートル先の候補地に移転しては・・・と提案いただき、学校としても賛同し変更しました。

酒井さん:校門は変わりますか？

事務長 : 将来的には、道路を隔てて現在建設中の体育館側から空中廊下を入れて新校舎へ入構する形にな

ります。

○蓬田裕樹 アクアビット・ファクトリー(株)代表取締役

新校舎には随所に願いや工夫が込められていると思います。教える側と教わる側の一方通行から、教わる側同士でも学び合う双方向型の教育になるのかと思います。また、教室棟を見学して、学年をまたいでコミュニケーションがとりやすくなるように工夫されているかと感じました。先生方が肩の力を抜きながら、生徒の学習をサポートすることができれば、心が通う温かい学校になるかと思います。福祉の視点から言えますが、人を活かすコミュニケーションを活発化させるようなアイデアがあればよいかと思います。

【質問】

蓬田さん:制服が刷新されましたが、そのイメージやコンセプトを伺いたいです。

中村部長:現行のもので18年が経過しました。新制服は、シルエットや機能向上を重視して採用されました。

仙台大附属ということで、エンブレムを作成しました。7つの星は高大連携の7年教育をあらわしています。おおかみは大学のマスコットを採用。7角形は7年教育を体現したものです。

※欠席された4名の評価委員の皆様

阪元 容昌 (桜丘小学校校長)

二瓶 たけ子 (松操会会長、朴沢学園評議委員)

千石 賢一 (父母教師会会長)

菅原 喜美男 (東北割烹研究会会長代行)

4 謝辞(狩野副校長)

本日は、年度末の大変ご多用のところお集まりいただき、ありがとうございました。

各担当より、いいところも悪いところも勇気をもって包み隠さず説明させていただきました。評価委員の皆様からは激励の言葉が多かったようです。頑張れというメッセージをたくさんいただきました。立派な校舎に見合う学校にしていきたいです。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

[中村校長先生より退職の挨拶と御礼]

先ほど高橋副学長からの話がありましたが、この3月で退職することとなりました。校長として2年間お世話になりました。前校長の佐々木稲生先生は、3月中旬に体調の悪化により急遽交代となり、そこから引き継ぎこれまで運営し

て参りました。来春からの新校長先生は、みやぎスタイルを確立した方です。さらに学校が発展していくと思います。

最後に、評価委員の皆さんに何を見せていくか・・・各科で検証し、評価委員の皆さんが見たいものを見せれるようにしていきたいです。今後とも次の明成をよろしくお願いいたします。

これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

以上